



東北メディカル・メガバンク機構 勉強会のご案内

# 噛むこと、噛み締めること

講師：坪井 明人 先生

(東北大学病院特殊診療部門高齢者歯科治療部 准教授)

上下顎の歯の静的・動的な位置関係により確立される“咬み合わせ（咬合）”は、咀嚼や嚥下などの口腔機能の発現において極めて重要な要素である。一方、この咬合は、経時的（加齢現象）にも病的（う蝕、歯周病、外傷など）にも障害を受けやすく、歯科領域では、咬合の維持、回復あるいは改善が重要なターゲットの一つに捉えられている。

演者は、これまで咬合異常や歯・顎骨の欠損によって生じた顎口腔機能障害に対する歯科補綴治療（咬合治療、義歯治療）を臨床の中心に据えてきた。これらの治療により回復・改善を目指す摂食（咀嚼・嚥下）、発語の治療には、治療技術のみならず解剖学的・生理学的背景が求められる。演者は、咀嚼運動や嚥下運動のリズムや筋活動パターンを形成する中枢性パターン発生器が駆動する介在ニューロン群の神経生理学的性質や歯根膜および顎関節における機械受容メカニズムを系統的に明らかにしている。これらの一連の研究は、意識的に制御することも可能であるが、普段は意識されることはない「噛む」動作の研究を通して、呼吸や歩行といった生体中のリズムカルな運動の生成とその変容のメカニズムの解明の一助になっているとも考えている。

一方、昨年3月11日に発生した東日本大震災においては、演者が所属する高齢者歯科治療部が有する豊富な訪問歯科診療の経験を生かし、半年間にわたる津波被災地への支援（巡回歯科診療および口腔ケア活動）およびそのマネジメントを行った。この支援活動の結果、大規模災害時に求められる歯科医療についてのデータが蓄積された。

改めて東日本大震災の被災経験から得られた教訓を噛み締めてみると、被災地域の復興を担う世代を幅広くサポートするネットワークの確立が喫緊の課題であると痛感する。また、今回の被災地域の多くは、少子高齢化や過疎化が進行した地域でもある。近年の本邦社会における少子高齢化の急進は、「老化に伴う退行性疾患（障害）」をクローズアップし、これまでに築きあげられてきた医療システムや健康の概念、さらには医学・歯学の臨床・基礎研究にもパラダイムシフトを求めている。東北メディカル・メガバンク機構における活動が許されるならば、被災地の価値観とニーズに添った視点で地域医療支援を行い、またゲノムコホートから得られた最先端医療の歯科診療への導入を推進する所存である。

## 2012.9.6 [木] 9:00 - 9:45

\*開始時間が少し遅れる場合がございます。予めご了承下さい。

会 場 | 星陵キャンパス 医学部1号館2階 大会議室

主 催 | 東北メディカル・メガバンク機構

お問い合わせ | 東北メディカル・メガバンク機構 事務管理・広報部門 広報担当

TEL: 022-717-7902 FAX: 022-717-7923 E-Mail: pr@megabank.tohoku.ac.jp